

製品名: p130 Cas (リン酸化 Tyr410) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05143**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	130kDa

抗原情報

遺伝子名	BCAR1
別名	BCAR1; CAS; CASS1; CRKAS; Breast cancer anti-estrogen resistance protein 1; CRK-associated substrate; Cas scaffolding protein family member 1; p130cas
遺伝子 ID	9564.0
SwissProt ID	P56945
免疫原	抗血清は、ヒト p130 Cas の Tyr410 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 376-425

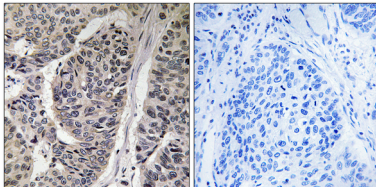
背景

BCAR1 (CAS) は、Src (MIM 190090) ファミリーのキナーゼ基質であり、遊走、生存、形質転換、浸潤など、様々な細胞イベントに関与しています (Sawada et al., 2006 [PubMed 17129785])。[OMIM 提供、2009年5月],ドメイン: セリンに富む領域は、血清応答配列 (SRE) の活性化を促進します。、ドメイン: 複数の潜在的な SH2 結合部位を含む中心ドメイン (基質ドメイン) と、分岐したヘリックス・ループ・ヘリックス (HLH) モチーフを含む C 末端ドメインを含みます。SH2 結合部位は、CRK、NCK、および ABL の SH2 ドメインに結合すると推定されています。HLH モチーフは酵母における偽菌糸の成長誘導に必須であり、CASL とのヘテロ二量体形成を媒介する。、ドメイン: SH3 ドメインはタンパク質の接着斑への局在に必須であり、接着斑キナーゼ 1 のプロリンリッチ領域と相互作用する。機能: 細胞接着に関連するチロシンキナーゼシグナル伝達の中心的な調整役割を果たすドッキングタンパク質。細胞遊走の誘導に関与する。過剰発現は乳がん細胞に抗エストロゲン耐性を付与する。、PTM: 接着斑キナーゼ 1 は、YDYVHL モチーフでタンパク質をリン酸化します。SRC ファミリーキナーゼはリン酸化部位にリクルートされ、他のチロシン残基をリン酸化することができます。チロシンリン酸化は、インテグリンを介した細胞の細胞外マトリクスへの接着によって引き起こされる。、類似性: CAS ファミリーに属する。、類似性: 1 つの SH3 ドメインを含む。細胞内局在: リン酸化されていない型は細胞質に局在し、チロシンリン酸化によって膜へ移行する。、サブユニット: 生体内で、接着斑キナーゼ 1、アダプタータンパク質 CRKL、および LYN キナーゼと複合体を形成する。CASL とヘテロ二量体を形成する。BCAR3、NPHP1、PTK2B、および SH2D3C と相互作用する (類似性による)。活性化 CSPG4 と相互作用する。INPPL1/SHIP2 と相互作用する。組織特異性: 精巣で豊富に発現し、広く発現している。肝臓、胸腺、および末梢白血球では低レベルの発現が見られる。このタンパク質は B 細胞株で検出されている。、

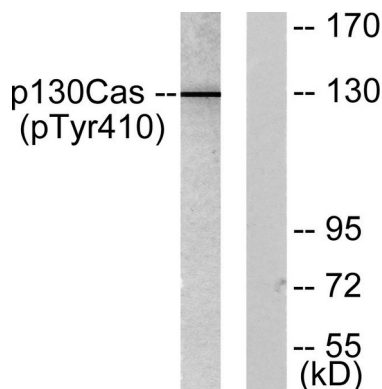
研究分野

ケモカイン;接着斑;白血球の内皮透過移動;アクチンと細胞骨格を調節する;

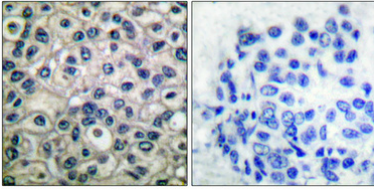
画像データ



p130 Cas (リン酸化 Tyr410) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



NIH/3T3 細胞ライセートの p130 Cas (リン酸化 Tyr410) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。